

「世田谷公園で建築家と一緒に茶室をつくろう！」に参加しました。

(株)イエサブ ユナイテッド一級建築士事務所
莊司 和樹

□世田谷ものづくり学校のご紹介

■D 世田谷ものづくり学校をご存知ですか？

2003年度末、少子化問題に伴い都内で統廃合となった公立の小・中学校の数は、89校にものぼった。そこで、2004年3月に統廃合となった世田谷区立池尻中学校を再生する次世代モデルの廃校跡地再生プロジェクトがスタートし、「IID 世田谷ものづくり学校」が、2004年10月に誕生する。渋谷からほど近い池尻の土地で「デザイン・建築・映像・食・アート・ファッション」などのさまざまな分野のクリエイターに教室をワーキングスペースとして開放したのだ（教室を複数のアーティスト達がオフィスとしてシェアしているといったイメージです）。

「IID 世田谷ものづくり学校」は、こちら↓です。

<http://www.r-school.net/about/concept.html>



世田谷ものづくり学校



ものづくり学校内部

知人から、「IID 世田谷ものづくり学校」内の建築グループが、ものづくりを通じたお茶会イベントを開催するという下記案内を頂き、参加してきました。こちら↓

http://www.ye-sub.com/kentikusikai/2008/green_tea_house.pdf

□お茶会ワークショップのはじまり

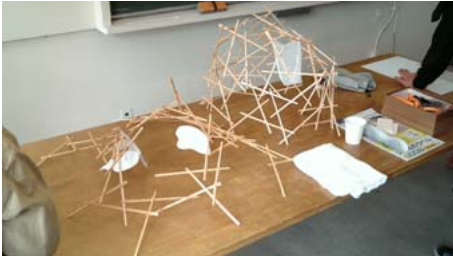
■今後の展開がまったく読めません！

当日の集合場所は、ものづくり学校の204教室。ここは、建築設計事務所（コンテンポラリーズ、パワーアーキテツ、エンジニアアーキテツ、竹内伸一建築設計事務所、MAP/マチカ建築設計事務所）が集まる教室で、通称204教室と呼ばれているそうです。まずは、当日のスケジュール説明。スケジュールは、下記のとおりでした。

- 9:00～ 9:30 集合、挨拶、概要説明、世田谷公園へ移動
- 9:30～12:00 世田谷公園にて組立、布張り
- 12:00～13:00 お昼、みんなでお弁当（レジャーシート持参）
- 13:00～15:00 お茶会、紙筒工作
- 15:00～16:00 後片付け、現地解散



204教室にて概要説明



茶室の完成予想模型

写真上が、「これが、今回つくる茶室の模型です。」と説明された模型。本当に、こんなものを子供達と作れるのか？(°▽°)と、1人不安を感じてました..

4つの班に分かれて世田谷公園へ移動（1班、7～8名程度）。ものづくり学校から歩いて5分程度の所にあります。私自身、はじめて、世田谷公園を訪れましたが、いろんなイベント（オジさん達のHIP HOP ダンスグループや、青空の下で詰め将棋イベントなど）が開かれており、たくさんの人達でにぎわっていました。子供連れ、家族連れの方達がほとんどで、「この公園は生き（生き）ているなあ」と感じました。この公園について特筆すべきは、廃材を利用して、子供と一緒に焚き火等ができること。遊具についても、ちょっぴり危険な感じもするけど子供心をくすぐるものばかり（きちんとボランティアの方達が子供達の遊び方を見守っています）。是非、一度、訪れてみて下さい。公園ってこんなにも楽しい場所だったのかと気づかされました。子供連れであれば、1日中遊んでいても飽きません。私自身、子供はいませんが、このイベントに誘ってくれた知人の娘さんと休憩時間中は、遊びまわりました。



世田谷公園



いよいよ茶室の組立開始

いよいよ茶室の組立て開始です。これからどうなるのか？、参加しているちびっ子達と一緒にハラハラしてました。



これが部材です

写真上が茶室をつくるための部材です。すべてリサイクル品だそうです。サランラップの芯を長くしたような紙筒と、ダンボールのフローリング、接続用の大きめの輪ゴム、そして伸縮性のある普通の布のみ。こ、これだけ？(´・ω・)



紙筒3本を使って組むパーツを作成

最初に「紙筒3本を組合わせて、こういうパーツを作って下さい。」と説明を受け、各班一斉にパーツ作成開始。慣れてくると小学校低学年の女の子でも簡単に作成できてしまいます。



パーツをどんどん作成

パーツをどんどん作っていきます。子供達は、大はしゃぎ。輪ゴムでとめるだけなので簡単です。



パーツを繋ぎ組み上げる

次に、作成したパーツ同士を繋げて、構造体を組上げていきます。不思議なことにあれよ、あれよという間に組みあがっていきます。それも、小さい子が自分達の手で組上げられるのです。まるで魔法のようでした。このアイデアを考えた方に、建築士として心より敬意を表します。



ダンボールのフローリング敷設

写真上のように、ダンボールのフローリング（これも廃材）を敷設します。



組上た構造体をフローリングの上に載せる

写真上のように、敷設したダンボールフローリングの上に組上げた構造体を載せます。紙筒の構造体なので軽々と持ち上げられます。



伸縮性のある布で覆う

最後に、伸縮性のある布を輪ゴムに絡めて自由自在にとめていきます。これも子供達で簡単にできる作業であり、大人も子供も一緒になって、楽しみながら作業を進めました。



にじり口完成（据置き型の炉が見える）

茶会を開くため、炉を設置し、にじり口を設けます（写真上）。ここで昼食休憩となりました。世田谷公園の好きな場所で、お弁当を食べました。



仮設の水屋を設置

昼食休憩の際に、スタッフの方達が写真上の水屋を設置してくれていました。



お茶会の様子

昼食を済ませた後、いよいよお茶会の開始です。



点前の光景



仲良くお茶会

各班ごとにお茶会に参加。



解体作業風景

お茶会終了後、皆で解体していきます。輪ゴムでとめているだけなので、解体はあっという間に終わってしまいました。何より廃材が1つでもでないということが素晴らしい、そして、子供達が率先して作業に参加していることにも感動しました（自分達の空間であるという意識があるのだと思います）。このシステムであれば、別の地域に部材をもって行って、そこでのイベントにあわせた空間を組上げることも可能です。そして、子供から大人まで空間を組上げる喜びを感受できる。さらに、自分達で組上げた空間の中で、お茶会という日本の文化に触れる・学ぶ・楽しむという行為に、参加者一同、大満足してイベントが終了しました。

以上